

中等教育研究開発室年報 第33号 (2020年3月31日発行) 別冊電子版
2019年度 授業実践事例

英語科 中学校第3学年

探究的な物語の読解

授業者 徳山 朝袈

(校内研究授業)

広島大学附属中・高等学校

中学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 徳山 朝袈

日時	令和2年1月17日（金） 第2限 9:40～10:30
場所	3年C組教室
学年・組	中学校3年C組39人（男子18人 女子21人）
題材	“A FABLE” SUDDEN FICTION American Short-Short Stories (Gibbs Smith)
目標	1. 英語の語句や表現等を活用しながら文章の意味を理解する。（知識・技能） 2. 問いを立てながら物語を読み取り、あらすじを考察する。（思考・判断・表現） 3. あらすじを考察するために、意欲的に言語活動に参加している。 (主体的に学習に取り組む態度)

指導計画（全2時間）

第一次 本文の和訳 問いづくり 1時間

第二次 本文の概要把握・考察 1時間（本時）

授業について

物語は、設定や登場人物の変化ややりとりから、何通りもの考え方ができるという楽しさがある。それは生徒の読解力や表現力を養う効果的な手段であると考ええる。

本題材は、1966年に書かれたアメリカの短編小説である。物語の展開は、若い男が地下鉄で出会った親子の娘に一目惚れしいきなり結婚を申し込み、警戒する母と娘をあらゆる言い回しで説得し、最終的には承諾を得る、というものである。現代日本を生きる我々にとっては、このような設定や展開は非日常的であり、どこか不気味さを感じる。特に、本文の最後に、“The conductor climbed down from between the cars as the train started up and, straightening his dark tie, approached them with a solemn black book in his hand.”とあり、この部分をどう解釈するかで物語の明暗が分かれる。授業者は、男が悪事を働こうとしているのではないか、もしくは母娘に秘密があるのではないかと考察した。一方で、ネイティブスピーカーによると、この物語は当時のアメリカ人の結婚観や恋愛観の「滑稽さ」を諷刺した作品だ、という意見であった。ここでの「滑稽さ」というのは、親が子の交際相手に求めるキャリアや収入の条件を満たし、許可した者と恋愛や結婚をするという風潮や、男が女性の容姿を重視していることを指す。それらは実際本文中からも読み取ることができる。また、題名の“A FABLE”の‘fable’は「寓話」すなわち「教訓または諷刺を含めたたとえ話（広辞苑より）」という意味があるため、それを読者の推測に当てはめて考えられるところにも本題材の面白さがあると考ええる。

本クラスの生徒は、英語学習に対する意欲が高く、教師からの働きかけに対しても積極的である。また、ペアやグループでの活動に対しても積極性は見られ、生徒同士で教え合う・議論するといった習慣は定着しているといえる。本題材は基本的にグループ活動で読解するため、様々な視点からの考察を提案し合って考えを深めていくことが期待できる。

指導観として、本題材は一見ハッピーエンドの物語のようだが、英語の語句や表現に着目すると多角的な捉え方ができる。生徒自身で「この表現は何だろう」、「なぜ彼はここでこのセリフを言ったのだろう」など、自由に問いを立てながら物語と向き合い、問いの答えを考える中で新たな視点に気付くことができると考えられる。また、教師からは、本文の最後3行分に関する発問を行い、生徒がさらに深い読解へ進む働きかけをしていく。しかし、物語は読み手が自由に解釈できるという点から、考え方の統一は行わず、様々な考察をクラス全体で共有して、最終的にはオープンエンドでまとめた。

題 目 探究的な物語の読解

本時の目標

問いを立てながら物語を読み取り、あらすじを考察する。(思考・判断・表現)

本時の評価規準(観点/方法)

1. 物語を読み取り、あらすじを考察しようとしている。(思考・判断・表現/ワークシート)
2. あらすじを考察するために、意欲的に言語活動に参加している。

(主体的に学習に取り組む態度/活動観察)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
ウォームアップ (2分)	・挨拶と簡単なやりとりをする。	
復習 (8分)	・和訳を見直し、あらすじについて話し合う。 →感想を話し合う。	・持参物チェック ・あらすじや感想は大まかでよいことを伝える。
展開①：考えを深める (15分)	・本文の最後3行分について考察する。→その考察をもとに本文中の伏線を回収する。	◆ <u>本文の最後3行分に関する発問を投げかける。</u>
展開②：考えをまとめる (20分)	・物語のあらすじをグループでまとめる。 ・まとめた内容をグループの代表者が発表する。	・設定—対立—解決の三幕構成にあてはめて考えさせる。 ◆ <u>教師の推測も全体で共有する。</u>
まとめ (5分)	・感想を記入する。 (1回目の感想からの変化など)	・時間内に書き終えるのが難しそうであれば、次回の授業の冒頭で回収することを連絡する。
備考 ◆：ポイントとなる場面 準備物：小説のコピー，ワークシート，辞書		

5. Write your first impression of this story **in English**.

6. Divide this story into three parts, 1)set-up, 2)confrontation and 3)resolution **in Japanese**.

set-up	
confrontation	
resolution	

7. Write your guess about this story briefly **in Japanese**.

8. Write your second impression of this story **in English**. (Compare with your first one.)

1. 授業について

今年度の英語科の教科主題は「問いを立てる生徒たち」である。今回の研究授業では、生徒自身で物語の中にある表現などに対して「問いを立てる」ことによって、解釈の幅を広げ、探究的な物語の読解へとつなげる活動を行った。

本題材は、1966年に書かれたアメリカの短編小説である。物語の展開は、若い男が地下鉄で出会った親子の娘に一目惚れしいきなり結婚を申し込み、警戒する母と娘をあらゆる言い回しで説得し、最終的には承諾を得る、というものである。一見ハッピーエンドの物語のようだが、英語の語句や表現に着目すると多角的な捉え方ができる。例えば、本題材の本文の最後に、“The conductor climbed down from between the cars as the train started up and, straightening his dark tie, approached them with a solemn black book in his hand.”とある。本題材の話題となっている「結婚」に関わるイメージカラーとしては、一般的には白や銀など「明るい」色が想定されるが、この一文に着目すると‘dark’や‘black’といった「暗い」色が用いられていることに気付く。そのコントラストをきっかけに生徒を探求的な読みへと誘うことができる。その中で、生徒自身が「この表現は何だろう」、「なぜ彼はここでこのセリフを言ったのだろう」など、自由に問いを立てながら物語と向き合い、問いの答えを考える中で新たな視点に気付くことができると考えられる。物語は読み手が自由に解釈できるという点から、考え方の統一は行わず、様々な考察をクラス全体で共有したうえで、タイトルに関わる教師の解釈を紹介するにとどめた。

以上の実践を通じて、設定や登場人物の変化ややりとりから自ら問いを立て、何通りもの読み方ができるという楽しさが物語にあるということを生徒に気付かせ、生徒の読解力育成に寄与することができたと考えている。

2. 研究協議より

<反省点>

・英語（テキスト）からの離脱

→生徒が本文のどの英語表現を根拠として解釈をしたのか、という点を生徒に求めるべきであった。

・発問の質

→本文中にある同じパターンのやりとりの特徴や共通点を考えさせて解釈を導くやり方がある。

・「三幕構成」という特徴の見極め

→「対立」と「解決」がはっきりしていないため、「三幕構成」という文章構成に着目して読むという読解方略が効果的に機能しなかった。

<良かった点>

・ワークシートの構成

→活動の見通しのつくものであった。初読の感想と読み終えた後の感想を比較しやすい構成となっていた。

・生徒の能動的な活動を促進できていた。

→発問の1つ1つが生徒にとって理解しやすく、イメージしやすいものであった。

